

# 時局に思う



日本遺族会会長  
参議院議員

## 水落敏栄

戦後七十年目の終戦の日を迎えました。朝から靖国神社へ参拝し、日本遺族会長に就任後、初めて全国戦没者追悼式に参列し、我が国の安寧と御霊の冥福を祈りました。例年雲一つなく快晴で肌突き刺さるような日差しを目にするたび、昭和二十年の空を思わずにはいられません。

終戦七十年という節目に、報道各社から多くの取材を依頼されており、先月には国内最大検索サイ

トのヤフー・ジャパンより取材を受けました。「戦争の記憶を百年後に伝える」という尊い取り組みをIT企業の先駆けで、広い世代に普及しているヤフー・ジャパンが企画されたことに感銘を受けました。遺族ではない一般の三十代の皆さんから熱心な質問が矢継ぎ早に続き、真剣なまなざしに心打たれ、こうした気持ちを持つ若者が少なくないと確信しました。そし

### 平和の尊さを若い世代へ 後継者育成が急務

て遺族の心情を一般の方々にご理解いただき、平和への思いをいかに強い信念にするか、これこそが遺族会に課せられた大きな課題だと痛感しました。

私は遺族に対する報道各社の関心が例え一過性であったとしても、できるだけ丁寧な戦争の悲惨さ、平和の尊さをお答えしようと思っております。こうした記事が幅広い世代の目に触れることが大変

重要だと思っております。

国民の八割が戦後生まれの今日、戦争は風化される一方です。だからこそ後継者育成が急務ですが、戦没者の孫、ひ孫の世代となれば遺族の意識は希薄です。しかし平和な社会を作るには、法律や社会基盤を整えることよりも、一番大切なのは、国民お一人お一人の意識の持ち方、すなわち教育にあると考えます。この節目の年に

一番身近な家族と戦争を特集したテレビや映画などを一緒に観て、自らの体験を話そうではありませんか。これこそが平和の語り部の一歩であります。

それは小さな一歩かもしれませんが。一朝一夕には目に見えた成果は上げられないことでしょう。しかし、心にまいた平和の種は、日々の積み重ねにより、確実に花を咲かせ確固たる信念を育むと信じて

います。その輪を遺族から一般の方々へ大きく広がるよう努力することは私たち遺族会の社会的責務であります。

私はこれからも恒久平和な社会を希求する遺族会組織の後継者育成に全力を尽くして参りますので、皆様方には引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

※水落会長のインタビュー記事はヤフー・ジャパンのサイトへ掲載されています。



英霊に黙禱を捧げる水落本会会長 = 靖国神社で